

知花さん生番組に幕

しまくとうばで5年半

【北谷・嘉手納】県内コミュニティ放送局のFMニライで週に1回、嘉手納町水釜の知花賢宜さんがパーソナリティを務めていた番組「1500知花四男ぬアンヤタン・カンヤタン」が10月27日、最後の放送を迎えた。2015年から始まり、毎回生放送の番組は、しまくとうばで地域話題を届け、放送回数は259回に上った。



最後の放送に挑んだパーソナリティの知花賢宜さん（左）とゲストの花城勝男町議。10月27日、北谷町桑江・ちゃんニライセンター

FMニライ 地域話題届け259回



259回目で最終回を迎えた番組の原稿を手にする知花賢宜さん

敬老会や生年祝いなどで長年、しまくとうばを使って司会をしてきた知花さん。番組では、甲子園に県勢が出場した際には中継を見て事前に原稿を作り、しまくとうばで独自の実況をしたり、富山宏嘉手納町長をゲストに招いて音楽による街づくりについて話を聞いたりした。

最終回のテーマは嘉手納町の無形民俗文化財「千原エイサー」。千原郷友会会長の花城勝男町議をゲストに、戦後米軍に接収された千原集落を紹介し、13年に米ハワイで開かれた沖縄フェスティバルに出演した時の思い出などを語った。

知花さんはしまくとうばの知識を深めようと、しまくと

うば普及センターの講師養成講座を受講し、初級、中級を経て今年から上級に挑戦している。番組を終えて「1回の原稿を書くのに、構想から初めて3〜4日はかかった。10年はやりたかったが、終わって少しホッとした気持ちもある」とほほ笑む。「今後は子どもたちに今まで勉強したしまくとうばを教え、広めていき

たい」と新たな目標を掲げた。FMニライを運営するクレスト（池原稔代表）によると、放送局の建て直しに向けて10月末で全番組を終了した。11月からは過去に収録したしまくとうばの番組を放送している。今後、FMニライは、しまくとうばに特化したオンライン放送に切り替えていくという。

沖縄タイムス 2020(令和2)年11月18日(水)掲載
生放送番組に幕
「1500知花四男ぬアンヤタン・カンヤタン」
知花賢宜さん(FMニライパーソナリティ)